

(午後 2時30分)

次に、2番下道議員の質問を許します。

2番、下道議員。

○2番(下道英明君) 本日は、一般質問の通告順に従いまして、質問要旨を補足しながらお伺いしたいと思います。

今回は、当町におけます環境保全の取り組み、環境に附随した観光資源の見直し、また町内の小中学校を対象にいたしました環境教育、防災教育の今後の取り組みにつきまして、環境と教育をキーワードにお尋ねしてまいりたいと思います。

まず最初に、当町における環境保全の取り組みについてでございます。

我が町は、環境宣言や環境基本条例の施行から2年有余が過ぎました。昨年度からは洞爺湖町環境基本計画の推進、取り組みがなされているところでございますが、計画検証の一環といたしまして、洞爺湖・中島の環境問題に注目してまいりたいと思います。

ある調査では、中島に生息するエゾシカがふえ、高密度になり、ササなど本来分布していた植物がなくなり、植生破壊が進んでいるとのことでございます。この植生破壊が雨水の補水能力をなくし、土壌が流失し、湖水に流れたり、一部の山肌では崩落が起きたり、洞爺湖の魚類、中島の鳥類などにも影響を及ぼしているという懸念が指摘されてございます。まず最初に、中島に生息するエゾシカ対策につきまして、今後の取り組みの前に今までの行政の取り組みについて経緯をお聞かせいただきたいと思っております。

○議長(篠原 功君) 伝産業課長。

○産業課長(伝 正宏君) 当町といいますか、洞爺湖周辺におけるエゾシカ対策についてのご質問でございますが、議員ご承知のように、当町並びに壮瞥町の当然町が入りますが、議会、観光協会、それと動物愛護協会と言ったほうがいいと思っておりますが、洞爺湖漁協さんですか、汽船会社、関係の団体で、洞爺湖エゾシカ対策協議会というのを設置しまして、過去の緊急雇用対策事業等を活用して昭和59年と平成13年に間引き対策を講じた経緯がありますけれども、この協議会は平成18年3月から休止状態ということになっているのが現状であります。なお、事務局につきましては、私ども産業課ということになっております。

○議長(篠原 功君) 2番、下道議員。

○2番(下道英明君) 経緯については、今、ご説明のとおりで了解いたしました。残念ながらこの問題解決につきましては、長期にわたり遅々として進んでいない現状でございます。大事なことは、かつての原始林で覆われた洞爺湖・中島を再生することにあるかと思っております。平成20年1月に、当町におきまして環境宣言をいたしました。この宣言の中には、この自然の恵みはこの地域に住む私たちの生きる源であるとともに、広く国民の共有するものであり、次の世代へと引き継ぐべき大切な資源である云々と書いてございます。

この中で、洞爺湖・中島というのは、支笏・洞爺国立公園においては、まさしく中核をなすものと思っております。洞爺湖・中島の再生として、エゾシカ対策というのは一定の間引き、また、生息域の限定化、中島全域での全面駆除などが考えられます。私は、一定の年限を定め

た期間で、個体数のゼロ頭という目標を目標にして、取り組むことが大事ではないのかなと考えております。

先月、当町役場におきまして、全道エゾシカ対策協議、いわゆるエゾシカ包囲網会議が行われたようでございますが、農林漁業被害の対策として、くくりわなの効果についての技術指導があわせて行われたということのでございますが、環境被害と農林業の被害を同じ土俵で論じることは、なかなか無理があるとは思いますが、エゾシカ包囲網会議と連携を模索するとか、あるいは大切なことは従来の、先ほど伝課長おっしゃったような洞爺湖エゾシカ対策協議云々ということで、従来の庁内での対策組織、また協議会が十分に機能していない現状におきましては新たに再編成するか、あるいは廃止、もしくは洞爺湖町独自での対策が従前のおり困難であるならば、やはりもう一つ、一工夫していくべきかと思えます。

それと、環境宣言と同時に洞爺湖町では環境基本条例があると思えますが、ここの23条にもございますように、国及びほかの地方公共団体との協力という条例文がございますが、この条例文に立ち返りまして、もし洞爺湖町、あるいは周辺地域の市町村で非常に無理があるのであれば、やはり国・道に対して対策の協力というのをお願いしていくという時期に来ているのではないかと考えております。もしこの現状を見逃していくのであれば、データでございますが、過去10年間でのエゾシカの個体数で、近年は第3のピークを迎えているということでございます。これは甚大な植生被害を今後及ぼしていくのではないかと思えます。ちなみに第1期は2002年401頭、2004年の437頭、それからどんどん下がって2007年には154頭まで減少したということでございますが、本年7月現在ではカウントしまして、おおよそ306頭ということでございますが、どんどんどんどん増加傾向にあり、回復のスピードが速いという現状がございます。

さらに、この現状を看過するならば、増加するエゾシカのふん尿による土壌の富栄養化、つまりある地域、水域が極端に栄養が豊富になって、特定の植物プランクトンが急激に増殖したり、中島の植生の生育にかなりの影響を及ぼしていくと思えます。本日、先ほどまで3人の議員の方が一般質問で言及しておりました、例えばゲリラ豪雨の影響でございますが、この影響で中島あたりは植生破壊との総合作用で、中島の大木も倒して一部は散策路をふさいでおります。このような状況の中で、改めて中島の生息数、エゾシカ対策についての今後の行政の取り組みについて、もう一度お聞かせいただきたいと思えます。

○議長（篠原 功君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） 今、お話がありましたように、現状は、そういうような形になりつつあるのかなと、認識しております。

また、先般、今、議員おっしゃられましたように、社会文教常任委員会から地元として対策を講ずることが難しければ、国・道に中島の現状を訴えて、対策を講じるよう要請活動し、一歩でも二歩でも進めるべきであるなどの指摘・指導もあり、おくれればながらであります。9月8日に壮瞥町と今後のあり方や進め方について協議をいたしました。その結果、協議会としては、エゾシカ対策の具体的な技術もなく、財政的にも厳しい状況にあるため、過

去実施した間引き対策などを打つことは難しいと。しかし、議員がおっしゃられましたように、エゾシカ対策環境も大きく変化しており、道としても今年、全道を対象にエゾシカ対策協議会を設置するとともに、6月29日には胆振地域エゾシカ対策連絡協議会も設置しております。

また、昨年2月になりますが、洞爺湖地域の自然環境をウチダザリガニ初めとする外来生物などから守るための洞爺湖生物多様性保全協議会も設置され、活動を続けております。これらを踏まえて、近々に当町と壮瞥町の副町長と担当課長で幹事会を開催し、今後の協議会のあり方や具体的な進め方を検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） 今、課長のほうから、新しく例えば生物多様性協議会等で行っていくというタイムテーブルかと思うのですが、ただいま本日もそうだと思うのですが、先般、酪農学園大学と当町は提携を行いました。そしてまた、ウチダザリガニのほかにもエゾシカ中島において捕獲、あるいは研究をしております。酪農学園大学だけではなくて、東京農業大学の学部生・院生も参加しておりますけれども、現実にかような大学学部生が中島を研究フィールドとして、そしてまたエゾシカについて造形が深い中で、ただ単に行政だけではなくて、こういった産学連携ということで後ほど質問してまいります、産学連携とかそういった面でエゾシカ、中島に常に学生が常駐しているわけですから、そういったところとの連携というのはお考えでありますでしょうか。

○議長（篠原 功君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） 実はエゾシカ対策協議会も各校、学者の先生等に検討していただいた経緯がございます。ただ、随分状況は変わってきたかなと、議員が今お話ありましたように、酪農学園大学これは積極的に行政対策をどうすべきかというところまでは、そういう方向で検討していただける。実は、きょうの朝も2人の准教授の方とちょっとお話をしたわけですが、十分協力できるので、酪農学園大学だけではなくて、今、議員お話がありましたように、東京農業大学ですとか、ほかにも活躍されている方も中島に入ってきていることですので、私どももそれら学校関係・研究者の皆さんと連携をした中で、具体的な対策が講じていければということで、2町の協議の中では、そこら辺も含めて検討をしたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） 了解いたしました。せっかく学生等、また連携を行っている研究機関・大学もありますので、そこを利用しながら近々でぜひエゾシカ対策、町として頑張りたいと思っておりますが、この点について町長のほうからも特にエゾシカについては、古くからいる町民の皆様は中島を見ていると、原生林が非常に荒れてきている、破壊がしてきているということを感じている方がいらっしゃいます。多くの方がいらっしゃいます。その中で、町として先ほど経緯を説明させていただきましたが、やはり遅々として進まないところがございましたので、その点、来年以降、日本ジオパーク大会もございまして、中

島というのはジオパークの中の一つの大きなキーのポジションを占めているエリアだと思いますので、その点で首長のほうから、今後エゾシカに対していろいろな行動を取っていくということをメッセージをいただければと思います。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏治君） エゾシカ対策につきましては、ここしばらく休止状態というふうなものが続いておりましたけれども、今、議員おっしゃられるように、最近また相当個体数もふえてきているという部分もございます。私どもの町洞爺湖、中島があるからこそ美しい風景を保っているのかなという部分でございます。シカ対策につきましては、先ほど課長から答弁がありましたけれども、壮警さんのほうと十分歩調を合わせながら、関係機関と連携を密にして、特にまた各大学のご協力もいただいて、何とか対策を講じれるようにしてまいりたいというふうに考えています。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございました。ぜひアクションを起こしていただきたいと存じます。

次に、洞爺湖・中島の環境に附随しました観光資源の見直しについてお伺いいたします。

先般、所属する常任委員会での視察におきまして、観音島・弁天島まに上陸いたしました。大島と状況は同じで、エゾシカの被害で至るところ荒れ果てておりました。大島からエゾシカが泳いで弁天島、あるいは観音島のほうに来ているとは思っているのですが、実際に両島のほうに行きますと、シゴト直接見ることができました。

二つの島を歩いておきまして、昔なのですけれども、小学生のころ観音島・弁天島のお祭りが毎年ございまして、汽船会社のご協力も得ながら訪れたことを思い出しました。特に、江戸時代から弁天島には弁財天が祭られ、また、観音島には仏師円空の観音像が祭られている中で、日の目を見ないすばらしい文化財の再登場はないのかなというのを、前回の視察の時には思い描いたわけでございます。その中で、特に一つ思ったのは、二つの島の中で散策路というのが大島のフットパスと違いまして、距離も短く、いわゆるプチ観光、ちょっと寄って観光するというには、非常にふさわしいのかなというイメージを持ちました。しかしながら、現在の両島の管理状況が余りにも悲惨で、大変驚いたわけでございます。ここら辺で、行政と観光業者、官民一体となって何かこの現状を打破する糸口がないのかなと思いついて、この質問をさせていただきました。洞爺湖・中島に附随する観音島・弁天島の文化遺産、観光資源として行政のご認識、ご見解をお伺いできればと思います。よろしくお願いします。

○議長（篠原 功君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤正人君） 洞爺湖中島・観音島・弁天島の件でございしますが、現在、洞爺湖・中島観光は民間事業による遊覧船が主たる乗り物手段でありまして、観音島・弁天島は噴火前には下船可能でありましたが、現在は、その航路はございません。

また、歴史的な資料ということでございますが、円空な彫り観音像については、通常は有珠善光寺にて保管されているというふう聞いております。

ジオパークの世界登録に伴いまして、来年も第2回の大会が洞爺湖周辺で開かれるということですが、歴史的な貴重な資料これらにつきましては、またいろいろと洞爺湖町には歴史的な貴重な資料あると思います。これらはやはり積極的に洗い出して、それらを積極的にPRしていくということについては、これはどんどん必要でないかなというふうに考えております。

しかし、観音島・弁天島ルートにつきましては、このルートを復活させるには、民間の運航会社へのご理解をいただかなければなかなか可能にはならない、現時点では、この状況下では、厳しいのではないかなというふうに考えております。今後、例えば、来年に向けての洞爺湖周辺のジオパークをめぐる各種コースなどの設定、これらの中に小型ボート等で中島のそれらの小さな島に入って散策できるようなコースの設定、これらについてもいろいろという方法を考えてながら、検討させていただきたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） 特に、今回、両島上陸いたしまして、散策路のところ、昔ちょうど弁天島のほう、弁天道のほうに上がっていくときにフットパスといいますか、散策路は非常に荒れておりました。これはエゾシカの植生破壊が進んだものと思いますし、また、ちょうど両島を結ぶ間のところ砂州ですね、砂の道のところですが、そこにあります栈橋等も非常に老朽化して使えない状況ということで、これは地元観光業者の方の管理もいろいろありますけれども、しかしながら、もしこのままの状態ですと、やはり整備すれば散策路、また栈橋の今後修復等していくということになりますと、将来負担というのが非常に大きくなりますし、中島という大きなくくりでいきますと、中島の中には大島もあれば弁天島・観音島・まんじゅう島と四つの島があるわけですが、中島というのは今私どもも見てるのは噴火の後、大島が中心的な観光資源になっていると思うのですが、本来はやはり中島というのは弁天島・観音島も合わせて観光資源として、これは私どもがしっかりと国立公園の中でございますので、ある程度の維持というのは必要になってくるのではないかと思います。観光振興という枠組みの中でいけば、来年度以降のいろいろな予算等の絡みが出てきますけれども、そういう中で単純に観光振興ということで、大きなファイヤーワーク、花火等とかいろいろございますが、それと同時に、予算、補助金の振り分けというのもそろそろ行政の立場からも、行政のほうからも応援していくという点で割り振りを考えていくことも必要なのではないのかなと思うのですが、その点についていかがでしょうか。

○議長（篠原 功君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤正人君） ジオパークの関係、来年度の大会でございます。また、中島につきましては、大島だけではないという部分もご理解はしていくところでございます。今後、厳しい財政下の中で予算的な部分、補助金もどのような中身の配分になるかということになるのですが、先ほども申しましたとおり、ジオパークをめぐる一つのコースとして、歴史的な貴重な資料を紹介するという点で言えば、それらに予算を使うということも、一つの方法

ではないかというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） はい、わかりました。先般、上陸した時に、弁天島・観音島のつないでいるところの砂州の両サイド、洞爺湖のほうに向かって左側を見れば、昭和新山・有珠山、そしてまた右手のほうを見ますと、先般行われました洞爺湖サミットの会場等がございます。そういった点で、ぜひ弁天島・観音島の再整備をタイムテーブルの一つとして、お考えいただければと思います。そのことによりまして、観音島・弁天島の何と申しますか、迷信を信じるわけではございませんけれども、ご加護もあるのではないかと。何か観音島・弁天島のあの姿を見ますと、洞爺湖は余り調子よくないのは、観音島・弁天島のきっちりお守りしてないのかなと、ちょっと思った次第でございます。

次の質問に入りたいと思います。

次に、町内の小中学校を対象にしました環境教育・防災教育について、環境・防災教育のプログラムに実際に参加しまして、経験したことを踏まえ、当町の教育行政の考え方と取り組みのお考えをお伺いしてまいりたいと思います。

3カ月前、私は、洞爺湖温泉中学校におきまして、総合的な学習時間ということで酪農学園大学並びに環境NPO法人アンダーウォータークリーンレイク洞爺（略称UWCLT）と申しますが、このご協力による環境学習会に半日ですが、参加させていただきました。

当日は、温泉中学校全学年が対象になりまして、テーマは身近な自然を通じて環境に興味を持つということで、地球温暖化と洞爺湖の水環境、また外来生物の生態についてということで、酪農学園大学の二つの研究室から大学院生、学部生が直接講師となり、また、補助員になり中学生を指導しておりました。その中で、学校内ではウィンドウズのパワーポイントを使いまして、テーマの解説、実験の手順を説明し、郊外に出て外来生物ウチダザリガニ捕獲、また個体の計測、データをまとめておりました。

もう一方、ほかの研究室におきましては、洞爺湖の水採水器を利用しまして、水の成分を数値化しておりました。子供たちは、大変目を輝かせて熱心に取り組んでおりました。特に、学部生・院生が年もそんなに離れていないということで、熱心に取り組んでおりましたので、最近小学校・中学生の教員の方も高齢化が進んでおりますので、そういった点では20歳代の若い研究員が、学校でプレゼンテーションしながら環境について話していたことに対して、非常に感銘を受けたわけでございます。

ことし7月に、ちょうど文部科学省が44年ぶりに、生徒指導用の基本書であります生徒指導提要を作成しております。その中の一文ではございますが、総合的な学習時間と生徒指導ということで、総合的な学習の時間においては、教科書の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な学習となるよう充実を図ることが重要であると。具体的には、例えば国際理解・情報・環境・福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童・生徒の興味・関心に基づく課題や地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や自己の将来に関する学習活動などを行うべきであると書いてございます。

そういった点で、地域や学校の特色に応じた課題について、学習活動が大切と述べておりますが、今回、酪農学園大学との提携を踏まえまして、教育委員会がサポートしながら官学連携の総合学習というのが可能なかどうか、お聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（篠原 功君） 遠藤管理課長。

○管理課長（遠藤秀男君） ただいま温泉中学校の総合の時間を使った取り組みをお話いただきましたけれども、まず、各学校での環境教育の取り組み状況について簡単にご説明させていただきます。と思っています。

町内に三つの小学校、三つの中学校がございますけれども、大体の学校におきまして、やはり今言われましたように、総合的な学習の時間を活用しまして、毎年度テーマを持って環境教育に取り組んでおります。例えば、虻田小学校では四、五年生が対象になっておりますけれども、これも総合の時間の中でリサイクル・ごみ処理・地球温暖化について今年度は学習してございます。また、町の環境課の担当職員も学校のほうに招いて出前授業なんかもやっていたり、また、メルトタワーを見学したりということで学習を進めてございます。また、温泉小学校は、3年生から6年生の総合の学習の時間で、ウチダザリガニの関係、それから生物多様性学習、地域農産物、月浦ワインづくりを通した環境学習というのを実施してございます。洞爺小学校では、各学年を通して、社会等の授業の中で公共施設等に回収箱を置いて、ペットボトルのキャップ等を回収したり、クリーン洞爺という年1回の行事なのですけれども、小中高を通した中で環境について学んでおります。

また、中学校においても虻田中学校では主に授業等を通して、地域限定の題材等を持った教育というのはないのですけれども、各種授業、教科書等を通してやっております。また、温泉中学校につきまして、先ほどお話があったように、洞爺湖の水質調査やウチダザリガニの調査を行っております。洞爺中学校もウチダザリガニの調査、クリーン洞爺等を通じて環境学習を行っております。これらの環境学習には、多くの専門機関の協力を得ております。昨年、酪農学園大学と7月29日に協定書を結んでございますけれども、この協定書では、産業・文化・生活・観光等の各方面における協力体制をうたってございますが、ここには教育という部分も入ってございます。

また、温泉小学校では、平成21年度から環境省洞爺湖自然保護管事務所、いわゆるレンジャーでしょうか、レンジャーの協力を得まして、先ほど申し上げましたウチダザリガニの調査、それから生物多様性の学習を行ってございます。温泉小学校は、先ほどの授業に酪農学園大学等の協力を得ております。

また、社会教育のほうで実施しております教育委員会事業として、町内の子供たちを対象にした洞爺湖ゲンキッズ事業の中でも、この夏休みにエゾシカとウチダザリガニの学習に酪農学園大学の協力を得て、実施しているところでございます。

また、小中学校ではないのですけれども、洞爺高校におきましても文部科学省の指定を受けまして、環境のための学習、地球学習環境プログラム、いわゆるグローブという事業で

ございますけれども、平成19年度から22年度までの4カ年間実施してございます。この中で水質調査同好会を結成しまして、洞爺湖の水質調査を継続して実施してございます。この事業には、北海道大学の協力を得て進められていると聞いてございます。

今、言われましたように、各学校それぞれ独自の授業、また総合の中で環境教育を実施してございます。今後、例えば、町内全小中学校等の児童・生徒の取り組みとして、酪農学園大学等との協力を得て生物多様性や水質調査等の授業等に、環境学習に取り組むことも考えられるかなと思って思っておりますけれども、一つのテーマを町内全校の共通意識を持ってやるというのは、ちょっとなかなか難しい面もあろうかと思えます。

先ほど、総合の学習時間の話もございましたけれども、小学生でいきますと、来年度から新学習指導要領が全面移行になります。この中でいきますと、現行年間110時間の総合の五、六年生ですね、110時間あるものが来年度からは70時間という形で、30時間減らされます。それから、中学校のほうも学年によって違うのですが、例えば中学1年生ですと、現行70時間から100時間の総合の時間を、中学校は24年度から完全実施になるのですが、これが50時間に減らされるというような、時間的な制約も結構出てくるのかなと思っております。

また、こういう形で一つの問題を通していくということは、全体の児童・生徒のつながりにとっては、非常にいいことだなというふうには思っておりますけれども、やはり各学校の取り組みというのも重要視していかなければならないだろうと思っております。そういうことから、例えば、全学年・全児童・生徒ということではなくて、ある学年に限定した中で何とか全町内通じた取り組みができないのかなということが、可能性としては一番高いのかなと、この辺をこれから校長会等通して、検討してまいりたいと思っております。

また、せっかくの身近な題材と協力体制がございまして、学校限定ということではなくて、社会教育も含めた中で、よりよい学習環境を提供できたらいいなというふうに考えてございます。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） はい、ありがとうございます。書ききれないぐらい、実際には町内の各小中学校は、このような取り組みを行っているのだということは認識いたしました。

また、ゆとり教育が来年以降大幅に削減されていくということで、これも総合学習が減っていくことになれば、当然、こういった環境学習、あるいは防災教育等の学習も自然に減っていくのかなとは思いますが、やはり当町の立ち位置というのは各いろいろな市町村でございますが、やはり国立公園という中で非常にアドバンテージがある中で、そこに住んでいる子供たちというのは何というのでしょうか。プライドを持って日々生活して、こういった一つのテーマを追っかけていくことによって、特に当町は合併して洞爺湖町が誕生して4年有余を過ぎているわけでございますが、その中で虻田地区ですとか、温泉地区、あるいは洞爺地区、町内の小中学校の生徒の交流というのですか、そういうのが非常に大切な面があるなあと、そういう思いが一つありましたので、このテーマを持ちました。

実際に20年後、30年後というふうになっていきますと、やはりこの町を背負っていくとい



うのは、この子たちの世代であれば、例えば私よりもっと上の世代の方たちが思っているような洞爺地区だとか虻田だとか温泉だとかそういったことではなくて、やはりこの小学校・中学校の中から一つのテーマ、授業を通して交流をしていけば、これが彼らが高校・大学、あるいは社会人になっていったときに、あそこにいるあいつだったと、ここにいるこいつだったという形で、そういう形で交わりは出てくると思うのですよね。そういった点で、せっかく大学との提携を行ってきているわけですから、これを利用する手はないのかなと思っております。

特に、今回、こういったゆとり教育いろいろありますが、もう一つは、観光振興の側面から見ますと、修学旅行生の取り組みでございます。

その中で、例えば洞爺湖町が各町内の小中が、一生懸命一つのテーマ取り組んでいるよということになれば、今、大変、修学旅行の中でも先生方が頭を悩ましているのは、単純な修学旅行ではなく、そこに学習・学びの場というのが必要になってくるかと思います。その中で、こういったことを町内の中で言い方は変ですけども、テストケースとして交えていくことによって、これは周辺の行政、観光、あるいは民間、産・学・官この一つの勉強にもなりますし、それがひいては修学旅行生を洞爺湖に来ればジオパークもあるよ、こういった環境学習もできるよということになれば、修学旅行だけではなくて研修ですとか、そういった点で幅広いものが出てくると思うのです。そういった点で、まず率先して町内の小中学校の生徒を引きつけて、そこでもし大した興味がわからないのであれば、これは修学旅行生を誘致するという段階にはならないわけで、ぜひそういった側面も踏まえて、ただ単純にゆとり教育・総合学習そういった点ではなくて、その裏には修学旅行生の呼び込みとこういったものも考えながら、縦割りではなくてグローバルに点と点、ウェブの状態でクロスしながら考えていくべき問題ではないかのかなと思っておりますが、この点についてももう一度ご再考いただければと思います。

その次に4番目ですが、これも同じくいわゆる先ほどの大学等の連携による環境プログラムと重複するところが多々ございますが、視点を今度は洞爺湖から有珠山のほうに移してお伺いさせていただきます。

関連団体は違いますが、先月、小学生から高校生を対象にいたしました、目指せ！火山ジュニアマイスター、洞爺湖有珠山ジオパーク勉強会に参加させていただきました。当日は、有珠山の主治医でいらっしゃいます岡田弘先生、それと宇井忠英先生のお二人の北海道大学名誉教授の講師によりまして、西山山ろくからバスを利用しながら北屏風山ろく、銀沼火口を歩きました。そしてバスで北外輪山まで探検したわけなのですが、宇井先生、岡田先生が同行しておりましたので、禁止区域も細心の注意を払いながら観察する、また入ることができました。

今回の勉強会で、お二人の先生が何度も何度も言ったのは、必ず前触れとして、「噴火はまた起こる」、「噴火はまた起こる」と、常に子供たちに述べておりました。残念ながら参加した小中学生は、主に壮瞥町、伊達市と室蘭の子供たちだったのですけれども、今回の勉

強会は洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、壮瞥町に事務局がございしますが、そことNPO法人環境防災研究機構北海道（通称CeMI北海道）、ここの理事が岡田先生であり、宇井教授であったわけですが、その中で非常に感銘を受けたのは、常に「次、噴火しますよ」、「次、噴火しますよ」と、言われたことなのです。これは先ほどの環境教育より、さらに重要なことであって、特に来年以降、当町が日本ジオパークの大会の開催地に決まりましたが、そういった中で、これこそ洞爺湖町の町内小中学校の先ほど課長がおっしゃったように、生徒を限定してでも、例えば小学校の4年生だけをピックアップするとか、あるいは中学生の一部をピックアップしながら、30人、40人程度の子供たちを集めて年に1回、あるいは2回こういった危険地域、当然、これは岡田先生、宇井教授のお力添えもなければ行けないとは思いますが、そういった形のどうしても町内の洞爺地区、あるいは虻田地区、温泉地区はまた別かもしれませんが、有珠山になじみが薄いと。そういう中でいずれにしても、いずれ噴火は起きるわけですから、そういった点で小学生・中学生の防災教育という一環側面を踏まえまして、その中でぜひ来年度以降、小学校・中学校がこのようなプログラムの授業の一環として参加できよう形ができないのかなと思うのですが、そういった点についてお伺いしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 遠藤管理課長。

○管理課長（遠藤秀男君） 議員言われましたように、有珠山は数十年に1度必ず噴火をしております。今後もそういうところから、多分、離れられないだろうなと思っております。この地域にとって重要なのは、やっぱり火山との共生ということが非常に重要で、大きなテーマになっていくのだろうなと思っております。これらのテーマを町内の子供たちに、いかに引き継いでいくか、私どもがそれをいかに支援していくかというのが非常に重要なこととなっていると思います。

先ほども申し上げましたけれども、各学校、防災教育というのは避難訓練とかいろいろあるのですが、このほかに有珠山に関してもいろいろ取り組んでいただいております。例えば、虻田小学校では総合の学習の中でジオパークの学習なり、金比羅火口の遺構の学習もしておりますし、有珠山のほうへ遠足もしまして、事前学習もやっている。それから、洞爺湖温泉小学校につきましては、有珠山の噴火に伴う被害について、集会形式で学習してございます。特に、洞爺湖温泉小学校につきましては、平成16年度から、「緑はどうなった」というテーマで、有珠山噴火で被害を受けた森林の緑はどうなったのだろうということで、子供たちが木の種を拾ってそれを苗木に育てて、それを植樹していくという活動を通して、地域の自然を理解し、共生する心を育て、将来の噴火への備えを学んでいます。この取り組みには、先ほど議員おっしゃられました環境防災研究機構北海道（CeMI北海道）、宇井先生とかが理事になっている、この協力を得てずっと進めてきているような状況になってございます。

また、先ほど議員参加していただきましたジュニアマイスター事業ですか、これ推進協議会のほうで実施している事業でございますけれども、こういった事業を推進協議会のほうは

ジュニアだけではなくて一般も含めて、また、勉強会なりツアーなんかをジオツアーとかいろいろな活動をしてございます。こういうところとの当然連携が必要になってくるのだろうなというふうに考えてございます。

また、町内には火山マイスターという方が数人おります。火山マイスターの方は、学校支援ボランティアにも登録されておりますので、これらの皆様の協力を得ながら、授業の中の対応も可能かなと思っております。

また、ジオパークには縄文遺跡群も当然一緒に登録されてございますので、社会教育面からの取り組みとして、例えば、現在縄文キッズ事業というのをやっておりますが、この中でも活動ができるのではないかなというふうに考えてございます。

先ほどの環境教育と同じなのですけれども、なかなか全児童・生徒が一堂に会してというのは非常に難しいかなとは思いますが、できるだけその可能性、先ほども言いましたが、学年限定等を考えながら、その辺検討させていただきたいなと思っております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） ぜひ次年度以降から、洞爺湖町内の小学校・中学校をこのプログラムに参加させていただければと思います。特に、環境NPO法人、あるいは今、新しい公共という言葉がございますが、やはり行政と環境NPO法人と連携しながらやっていく、なかなか行政だけの枠組みの中では難しいものがあるかと思えます。そういった点で、宇井教授のところもそうでしょうし、あるいは今、UWCAですか、室田君のところでもやっておりますが、ああいった形のNPO法人の協力を得ながら、今後とも取り組んでいただきたい、来年度以降、タイムテーブルに乗っけていただければと思います。

また、今、こういった形の中で教育行政について、今後の取り組みについて教育長に一つメッセージいただければと思います。

○議長（篠原 功君） 教育長。

○教育長（綱嶋 勉君） 先ほど、管理課長からお答え申し上げましたけれども、小学校・中学校とも町の特色ある教育というのが非常に教育の中でも今後も重要性というか、当然だというふうに理解しておりますので、何とか学年限定という形になるかもわかりませんが、各小中学校と協議しまして、23年度以降、今、提案ありましたいろいろな取り組みについて実施できるように努力したいと思います。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） はい、ありがとうございます。

とにかく最も一番大切なことというのは、町内の小学校・中学校大きく分けて三つのエリアがあるかと思いますが、ここの子どもたちが一緒になって同じ時間帯で、同じテーマを追いかけていく、求めていく、そういう共有体験をぜひこの子どもたちにさせていただけるような施策をとっていただければと思います。

以上で、私の質問終わります。ありがとうございました。

○議長（篠原 功君） 以上で、2番、下道議員の質問を終わります。

本日の一般質問は、これで終了いたします。

---

◎散会の宣告

○議長（篠原 功君） 以上で、本日の日程は、すべて終了いたしました。

これで、本日は散会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後 3時16分）